



# Up with People 日本ツアー

## 2006 年秋

### 報告書

Up with People 日本オフィス  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 2-15-9  
Tel: 03-3400-7495  
[www.upwithpeople.org](http://www.upwithpeople.org)

## 目 次

1. はじめに	3 ページ
2. 2006 年秋日本ツアースケジュール	4 ページ
3. ツアー総評	5 ページ
4. 長崎県大村市	9 ページ
5. 長野県上田市(旧丸子町)	12 ページ
6. 大阪府吹田市	16 ページ
7. 奈良県宇陀市(旧室生村)	19 ページ
8. 愛知県豊田市	22 ページ
9. 東京都多摩市	26 ページ
10. おわりに	29 ページ
11. 添付資料	30 ページ

## はじめに

このたびは Up with People(UWP)日本ツアーにご協力いただき、またこのプログラムに参加している若者達に貴重な体験をさせていただきまして、誠にありがとうございました。10月30日の月曜日、彼らは成田空港より無事ベルギーへ旅立ち、現在はヨーロッパにて順調に活動を行っております。

9月18日、関西国際空港到着から6週間の日本ツアーがスタート。長崎県大村市では、800名以上の障害者の方々と九州地区最大規模交流イベント「ふれあいの集い」へ参加。そして「Up with People タウン」である旧丸子町(現在合併して上田市)では、恒例となった「国際交流フェスティバル」に参加と、丸子地域を中心とした交流活動を行いました。大阪府吹田市では、企業訪問や地場産業を見学し、吹田から国内そして海外へ発信している技術や社会貢献事業について説明を受けての意見交換。また合併後奈良県宇陀市となった旧室生村では、国宝室生寺での講話を聞いたり、自然が堪能できるウォークラリーへ参加。愛知県豊田市では、トヨタ自動車工場見学や豊田名誉会長への表敬訪問。また豊田市在住外国人についての現状説明や農業体験、三好町ではカヌー体験。そして日本ツアー最終地である東京都多摩市では、中学校訪問やハロウィーンイベント等に参加。さらに、2004年から始めた多摩市内の全中学校訪問に関しましては、今回の中学3校訪問により目標を成し遂げることができました。彼らの6週間にわたる日本滞在中、心身ともに様々な体験をさせていただけたことを、ここに改めてお礼申し上げます。

今回の日本ツアーを終え、たくさんの方々からご感想やご意見をいただきました。つきましては、ここに2006年秋日本ツアーの概要と皆さんからの声をご報告いたします。他の訪問地での活動内容も是非お読みいただき、情報を共有していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

Up with People 日本オフィス

宮脇真一 (リージョナルディレクター／アジア)

金井貴美 (プロジェクトマネージャー)

徳田依子 (ツアーマネージャー)

富田愛里 (アドミッションズコーディネーター／アジア)

## 2006 年秋日本ツアースケジュール

今年の日本ツアーは以下の 6 都市を訪問いたしました。

9/19 - 9/25	長崎県大村市(訪問 5 回目)
9/25 - 10/2	長野県上田市(訪問 8 回目)
10/2 - 10/9	大阪府吹田市(訪問 2 回目)
10/9 - 10/16	奈良県宇陀市(訪問 2 回目)
10/16 - 10/23	愛知県豊田市(訪問 8 回目)
10/23 - 10/29	東京都多摩市(訪問 4 回目)

各訪問地での詳細なスケジュールは以下の通りです。

長崎県大村市	9 月 18 日	月	日本到着・時差調整	奈良県宇陀市	9 日	月	移動日
	19 日	火	大村へ移動		10 日	火	地域学習・セミナー
	20 日	水	内部活動日		11 日	水	地域活動
	21 日	木	ふれあいの集い		12 日	木	地域活動
	22 日	金	ショー		13 日	金	休日
	23 日	土	ホストファミリーデー		14 日	土	ショー
	24 日	日	休日		15 日	日	ホストファミリーデー
長野県上田市	25 日	月	移動日	愛知県豊田市	16 日	月	移動日
	26 日	火	地域学習・セミナー		17 日	火	地域学習・セミナー
	27 日	水	地域活動		18 日	水	地域活動
	28 日	木	地域活動		19 日	木	地域活動
	29 日	金	ショー		20 日	金	休日
	30 日	土	ホストファミリーデー		21 日	土	ホストファミリーデー
	10 月 1 日	日	まるこ国際交流フェスティバル		22 日	日	ショー
大阪府吹田市	2 日	月	移動日	東京都多摩市	23 日	月	移動日
	3 日	火	地域学習・セミナー		24 日	火	地域学習・セミナー
	4 日	水	企業訪問		25 日	水	地域活動
	5 日	木	ショー		26 日	木	休日
	6 日	金	休日		27 日	金	ショー
	7 日	土	地域活動		28 日	土	地域活動
	8 日	日	ホストファミリーデー		29 日	日	ホストファミリーデー/ 都内へ移動
			30 日	月	日本出発		

## ツアー総評

2006 年秋日本ツアーは秋晴れの 9 月 18 日に始まった。アメリカ・イリノイ州シカゴより、テキサス州ダラスを経由して、関西国際空港に降り立った。殆どのメンバーが初来日ということもあり、その多くは期待と不安が入り混じった表情を浮かべていたが、長旅での疲れを若干見せただけで、皆、元気に振る舞っていた。

### <Cast A 2006>

- **プロフィール:** 今回のプログラムは、世界 23 カ国から集まった、参加者 79 名、スタッフ 11 名の合計 90 名で構成。平均年齢は 22 歳で、高校を卒業してすぐ参加した者もいれば、離職して参加した者もいた。また、日本からの参加メンバーは関東、中部、関西、そして九州出身の 6 名と、関東出身のロードスタッフ(ツアー同行スタッフ)1 名。日本ツアー開始前より、ロードスタッフから「メンバー全員が来日を楽しみにしている。日本語の辞書やフレーズ集を購入し、日本人メンバーと挨拶の練習をしている」との報告もあった。受け入れ先からも「去年よりもメンバーが若いからか、元気でノリがいいし、何でもフレキシブルに挑戦してくれる」というコメントが届いた。
- **ロードスタッフ:** 今回のツアーで日本オフィスが一番気がかりだったことは、ロードスタッフの中に日本ツアー経験者が少ないということであった。参加メンバーとして、またスタッフ 1 期生として参加経験のあるスタッフは 11 名中 5 名で、マネージャーレベルでの経験がないということもあり、他の国とは準備の仕方や対応の方法が違う日本で、どれほど柔軟性を持ってサポートしてくれるか、またキャストをリードしてくれるか等について、事前に把握できない面が多々あった。そのような理由から、ツアー前半は、ロードスタッフがスタッフとしての責任を持ち、キャストを動かすという姿が見えなかったが、日本オフィスの動きを見ているうちに、日本での運営の仕方が徐々に分かってきたようで、半ばからは率先してサポートする姿が見えた。
- **キャラクター(長所・短所):** エネルギーに溢れたメンバーが揃っていて、いつも笑い声がたえなかった。毎朝のミーティングでは、気合を入れるために掛け声をかけるなど、チームワークが良かった。また、メンバーの多くは深い探究心を持っており、見学先やゲストスピーカーを迎えての講演では、様々な質問が飛び交い、ディスカッションセッションになることも多々あった。その反面、時間にルーズなところがあり、集合時間に遅れたり、移動するまでに時間がかかったりと、受け入れ先に迷惑をかけることもあった。
- **体調:** いつも元気だったが、日本ツアーの中盤に入った頃に体調を崩すメンバーも出てきた。約半年間にわたるワールドワイドツアーの後半に差し掛かったことや、スタート地点であるアメリカからまったく違う文化の国に来て、最初は気が張っていたメンバーも日本に慣れて気が緩んだということも関係していたようだ。しかし、去年のメンバーと比べると体調を崩すメンバーの数は格段と少なかった。

## ＜ホストファミリー＞

今回、6 訪問地で、合計 383 家族がホストファミリーとしてメンバーを受け入れてくれた。初めてホストファミリーになる方もいれば、以前受け入れをし、再度応募される方もいた。家族の一員になることで、メンバーは日本での生活様式を体験することができる。メンバーはそのコミュニティーで生きる家族のありのままの生活を垣間見ることができ、またホストファミリーも彼らを家に迎え入れることで異文化間の相違点に気づいたり、自宅にいながら世界を身近に感じることができるのである。

- **日本人メンバー受け入れについて:** 去年のツアーでは、いくつかの訪問地で、日本人メンバーのホストファミリーを探すのに苦労したとの報告があったが、今年は前回の受け入れ経験を通して日本人メンバーもホストしたいと思われた家族がいたためか、思ったよりスムーズに見つかったようだ。外国人メンバー同様、日本人メンバーも自分の家とは違う環境で生活することで、新しい視野を広げる機会を得る。ホストファミリーにとっても、常に異文化に接している彼らを受け入れることにより、日本人の観点で、彼らの異文化に対する考えや UWP ツアー中の彼らの活動を言葉の壁なく聞くことができるので、中にはすすんで日本人メンバーをリクエストするホストファミリーもいた。
- **急なスケジュール変更について:** 運営の関係上、UWP から急遽、時間や場所を変更させてもらったケースがあった。こちらからは書面または実行委員会が代わりに変更をホストファミリーに伝えた。受け入れ先のホスト担当の方に、個別で対応をお願いしたケースもある(先遣隊の受け入れホストなど)。受け入れ先も含め、メンバーのホストファミリーにもフレキシブルに対応、協力していただき大変感謝している。

メンバーは六家族との生活を通して、文化だけでなく、日本人の誠実さや善良さ、日本式の丁寧なおもてなしなど、国民性としての心の温かさを感じとったようだ。他国のツアーと比べると、日本ではホストファミリーとの繋がりがとても深くなるので、「自分に新しいファミリーが 6 家族もできて、とても嬉しい」と、あるメンバーは語ってくれた。それと同時に、当たり前のことだが、日本人の考え方や物事の進め方が人によってかなり差があることに戸惑い、結局は人と人との交流であるということも学ぶことができた。色々な家族がいて、色々な考え方・捉え方があることが面白い、このようなことを学ぶのが Up with People ならではだと思ふ、というコメントもあった。ホストファミリーも同じように感じとってくれる方がたくさんいて、そういった相互理解のもと、また交流の輪が広がったようだ。(各訪問地の「ホストファミリーの声」を参照)

## ＜地域活動＞

今回の地域活動は過去に出ていた意見を取り入れ、とても有意義な活動になった。北米、ヨーロッパ諸国では、各国の地域活動に対する考え方、訪問地のニーズ、受け入れ先の意向などによって異なる。日本の場合は、人々との交流、ふれあいに重点を置いた内容が好まれる。今回のツアーも、小・中学校や福祉施設、老人医療施設に訪問するケースが多かった。その他には、日本文化体験やその地域の特色を活かした活動も取り入れられ、日本ツアー全体を通してバランスのよい地域活動となった。(各訪問地の「地域活動」を参照)

## <Up with People ショー>

Up with People にとって世界共通の言葉である“音楽”を使っただけの交流は不可欠である。また、このショーでは映像を用いて訪問地での活動報告(交流や地域活動先の様子)を行い、受け入れをしてくださった地域の皆様への感謝の気持ちを発表する場である。その他、メンバーが様々な歌やダンスを披露し、UWP から観客に「Bringing the World together ~世界を結ぶ~」「一人一人の願いが世界を変えていく」などの平和へのメッセージを伝える場でもある。今回のショーでは、地元の子供達が参加する“The Sound of Peace”という曲が加わり、観客が感動する場面もあった。世界共通である歌やダンスは、言葉や文化を越え、みんなが一つになれる手段である。今回の UWP のショーは会場にいる全員で創りあげることができ、大勢の方に好評であった。

- **会場のサイズ、施設利用について:**各訪問地により、会場のサイズや設備が異なったので事前の打ち合わせが重要となった。今回は UWP 側が音響、照明ともに、ある一定のレベルを要望したため、レンタル機材を使用する場合があった。日本の場合、外国人スタッフが館内機材を使用することに関して、ホール側が好意的でない場合もあるため、必ず日本人スタッフが配備される必要がある。また、各施設とも利用時間は厳守であるため、使用したすべての設備、部屋等すみやかに撤去するよう心がけた。
- **リハーサルについて:**各会場の舞台の大きさが異なったため、今回のツアーではリハーサルが念入りに行われた。ショーの当日はメンバー全員出席のリハーサルを約 3 時間行う。スライドに日本語訳を入れたり、司会者の台本を訳したりと日本オフィススタッフも協力した。

## <受け入れ先、事前準備>

ほとんどの受け入れ先が約 3~6 ヶ月前から実行委員会を立ち上げ、訪問までの間、定期的/変則的に委員会ミーティングが行われた。UWP スタッフは可能な限り出席し、やむを得ず欠席の場合は、後に受け入れ先からミーティングで話し合われた内容を報告してもらった。殆どのコミュニケーションは E-mail でとられ、CCで他の委員会メンバーにも送ることにより、全員が同時に情報を共有でき、さらに便利で時間短縮に有効であった。中にはメールリストを作成した都市もあった。

- **役割担当&ミーティング:**多くの訪問地では、チームに分かれ(ホストファミリー担当、地域活動担当、交流会(レセプション)担当、PR 担当、会計担当など)、各チームのリーダー全員が E-mail での連絡の他に定期的にミーティングを行い、最新の情報を共有したり、意見交換を行っていた。時期をみて委員会全体のミーティングも行うことにより、委員会としての団結力が高まり、より準備が進んだようであった。
- **情報共有:**実行委員会の中で、また UWP との間で問題になったのは、知らない間に“こと”が進んでいるということであった。各担当に分かれ、判断を下すことが必要な場合もあるだろうが、すべての事柄における最新の情報を、他の委員会メンバー及び UWP が共有していることが、訪問時の運営をスムーズに行うためには必要不可欠であると、改めて感じた。UWP サイドとしても、本部から送られてくるはずのデータ(アレルギーリスト、各プロフィールなど)の到着が遅れ、受け入れ先に待ってもらった結果になった。また、去年、各地の受け入れ先より「他の町では何をやっているかもっと詳しく知りたい」「他の町の実行委員会とコミュニケーションをとり、横のつながりをつくりたい」との声を聞き、今年 7 月に Up with People ジャパンサミットを開催したこともあり、全国の実行委員会の代表者が自由に情報交換を行っていたようだ。

- **先遣隊:** 豊田市を除く全ての訪問地には、UWP 参加メンバーを訪問 1 週間前に先送りして実行委員会のサポートやグループ内部の資料作成などを行った。町によっては先遣隊の行動内容をよく把握していなかったところもあったようで、UWP サイドのより詳細な事前説明が必要だった。先遣隊としての仕事はプログラム内の「インターンシップ」で、メンバーも慣れない環境で一生懸命取り組んだと思う。吹田市においては、外国人メンバー 2 名を送ったこともあり、訪問数日前に日本オフィススタッフがサポートをするために先入りした。
- **訪問中の受け入れ委員会の動き:** 町によって様々だが、委員会メンバーが毎日活動先に参加し、運営がうまくいこう万全のサポート体制を整えてくれたところがあり助かった(使用施設の施錠、ゴミの処理まで UWP と共に行ってくれるなど)。また、UWP メンバーが「受け入れ先」としてすぐ認識できるように、お揃いのジャケットやロゴの入った名札などを着用し、ビジュアル的に工夫してくれた委員会もあった。UWP メンバーからは「何か質問があるときにアプローチしやすい」「彼らのチームワークを感じ取ることができ、訪問を歓迎されていると感じ、うれしく思う」との感想が寄せられた。

### <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介活動とプログラム参加への興味>

これまで Up with People 日本人参加者の多くが、日本ツアーでメンバーと交流(ホストファミリー、ショー鑑賞、大学など学校での交流活動)したことをきっかけに参加を希望してきた。今回も、各地の実行委員会のサポートをいただき、できるだけ多くの若者とメンバーが交流できる機会を持つことをゴールとした。全国 10 クラスで異文化理解や NPO 活動をテーマとした参加型レッスンプランを行い、47 名が Up with People プログラムに関心を持った。また、ショー終了後、10~20 代の方々を対象として、「体験型留学に対する意識調査」を目的としたアンケート調査を行い、262 名の方から回答を得た。うち 87 名が Up with People の情報を希望する結果となった。また、ショー終了後のプログラム説明会(吹田、豊田、多摩で実施)には約 60 名が参加した。アンケートの結果から、アンケート記入者の 9 割が、Up with People のような体験型の留学プログラムに関心を示していることがわかった。

ツアーを振り返ってみると、色々な状況下で、思っていたよりもスムーズに進んだと思う。雨や地震(中には生まれて初めて地震を経験したメンバーもいた)にも遭遇したが、ツアー期間中の天候は全体的に良く、活動のキャンセルもなく無事に終わった。今回のツアーを通して、メンバーがたくさんのことを経験し、そして学び取り、自国に帰ってくれたと確信している。



## 第1訪問地:長崎県大村市 (9/19 - 9/25)

### <受け入れ先(実行委員会)>

受け入れ先: NPO 団体「Up with おおむら」(理事長 大隈和博さん)

- \* 受け入れまでのミーティング:5 月より変則的に実施
- \* 役割: Up with おおむら 全ての分野での受け入れ窓口

### <ホストファミリー>

大村市、東彼杵郡、諫早市、佐世保市、その他近隣に在住の 77 家族  
ホストファミリー説明会:9 月 12 日(火)夜開催

### <表敬訪問>

大村市助役 水曜日午前に 10 名が訪問

### <地域活動先>

9 月 21 日(木)

午前: 大村市立旭が丘小学校(UWPメンバー12 名)、  
東彼杵町立千綿小学校(UWPメンバー10 名)

体育館での歓迎会では、小学生からの歌の披露や全校生徒とのゲームなどで交流をした。その後、UWPメンバーからは自己紹介と歌の披露。1~2 名ずつで後半は各教室へ入り、カルタなどの日本的なゲームや質問タイムなど、楽しい交流を行った。

午後: ふれあいの集い(UWPメンバー85 名)

大村市が主催となり毎年行われるイベント。知的、身体、精神に障害のある方が約 800 人集まり、UWPメンバーとゲームや音楽を使って交流を行なう。言葉や文化の違うUWPのメンバーと様々な障害を持った方との「本当の心と心のふれあい」が実現。メンバーにとっても、大変思い出深いイベントになった。

### <地域学習>

9 月 23 日(土)

午前: 除草活動 (UWPメンバー全員、ホストファミリー)

キャストメンバー、また地域の方達にも環境保護に関心を持ってもらうため、Up With おおむらが企画。メンバーと共にホストファミリーの方達が除草作業に参加。自然の中の活動で楽しく作業ができた。

9 月 24 日(日)

長崎原爆資料館見学 (UWPメンバー70 名)

オプションで行った平和学習。長崎資料館や平和公園を自由に見学した。

## <Up with People ショー>

9月22日(金) 18時30分開場/19時開演

場所:さくらホール 集客数:約450名 地域の子供達:旭ヶ丘小学校の生徒20名

ホールの舞台関係の方が協力してくださり、スムーズな準備ができた。会場のサイズもちょうど良く、日本ツアー第一回目のショーとしては、大成功だった。

## <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

金曜日(ショー日): ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置

## <プログラム参加への興味>

アンケート回収…49名参加

Up with People 活動情報希望者…15名

## <その他>

- \* 対面式:Up with おおむらからの歓迎の言葉、「漢字」を用いてのホストとメンバーの対面。
- \* 施設利用:シーハットおおむら
- \* 駐車場:シーハットおおむら、UWP スタッフホテル
- \* 食事:昼食はホストファミリー手作りのお弁当。Show日の夕食はUp with おおむらにて手配。
- \* 先遣隊:UWPメンバー2名(日本人、ブラジル人)が訪問約1週間前に大村入りし準備。
- \* Welcome Party:水曜日の活動終了後、夕食(ビュッフェ形式)を兼ねて開催。ホストファミリー、行政団体関係者等が参加。ライブバンドの演奏に合わせてホストとメンバーと一緒に踊る場面も。またサプライズで、9月が誕生月のメンバーへ、Up with おおむらの方より誕生日プレゼントも手渡された。

## <滞在を終えて>

### 受け入れ先の声:

- キャストの日本に対する意欲、期待が感じ取られ、大変よかった。
- 準備開始の時期が遅かった。
- キャスト側からの大きなスケジュール変更は、こちらも企画を進めていることもあり困難であることを理解してほしい。
- メンバーが活動先で率先して子供たちと遊んでくれて、子供たちにとって大変いい思い出になった。
- Welcome Partyは、ホストもメンバーも盛り上がり楽しんでくれて充実した時間になった。
- 去年の訪問で、グループは地域に国際交流/人間同士の交流の「種まき」をしてくれた。今回のキャストも期待を裏切らず、上手にその種から芽を出してくれた。これからは是非この活動を継続し、きれいな花や大きな緑へと成長するよう頑張っていきたい。

### ホストファミリーの声:

- ホストファミリーデーは友好を深めるためにも大変有意義だと思う。
- もっといてほしかった。滞在が短すぎる!

- 1週間という短期の受け入れだったが、日本の外に目を向けること、また同時に家庭／家族にも同じくらい目を向けるということが、充実した人生を送るために重要なんだと実感。
- 毎日の送り迎えができず、電車に乗ってもらったので申し訳なかった。
- ほぼ毎日作ったお弁当を残す日もあり、メンバーの体調が気になった。

#### UWPメンバーの声：

- 初めてのジャパン、初めてのホストファミリーに感動！
- 「ふれあいの集い」では、障害者の方達との交流を通して、改めて「人と人とのふれあい」が大切だと実感。
- Welcome Party は、ホスト、実行委員会、市の皆さんという、町全体で歓迎してくださっているのが分かり、すごく嬉しかった。
- 原爆資料館では、声にならない感情がこみあげてきた。
- 毎日の昼食は、ホストファミリーお手製の弁当だったが、ホストファミリーの負担をなくすため、他の案を考えてみてもいいのでは？
- ホストファミリーデーの除草活動は有意義なものだったが、(自分の)ホストファミリーとの時間が少なくなってしまったので残念でもあった。

## 第2訪問地:長野県上田市 (9/25 - 10/2)

### <受け入れ先(実行委員会)>

UWP上田実行委員会(委員長:ビル・レッティさん)

上田市教育委員会事務局丸子地域教育事務所

OPIE(丸子町国際交流事業を進める会)

- \* 受け入れまでのミーティング:8月より数回実施
- \* 役割: UWP上田市実行委員会 全ての分野での受け入れ窓口  
丸子地域教育事務所全ての分野での受け入れ窓口  
OPIE ホストファミリー関係

### <ホストファミリー>

上田市、その他近隣に在住の59家族

ホストファミリー説明会:9月15日(金)午後7:00より丸子文化会館にて開催

ホストファミリー懇親会:11月28日(火)午後7:00より、実行委員会反省会を兼ねて開催

ほとんどがリピーターだが、初めての受け入れもあり。

### <地域活動先>

9月27日(水)

午前: 中丸子保育園、みなみ保育園、東内保育園、西内保育園、依田保育園

塩川保育園、ちぐさ幼稚園、わかさ幼稚園、長瀬保育園、西望幼稚園

上記の各保育園、幼稚園へUWPメンバー5名ずつ訪問し、園児との交流を行なった。運動会の時期だったので屋外で競技をしたり、園児からダンスや歌の披露があった。昼食時間も共にし、一緒に掃除を行うグループもあった。

午前: 信州大学(UWPメンバー10名)

英会話サークルメンバー5名とUWPメンバーが組み、グループ対抗でキャンパスや上田市に由来する課題を解く、チームコミュニケーションゲームを行った。ゲームでは熱くなり、カフェテリアでの昼食の楽しいひと時を同世代で共有した。

9月28日(木)

- \* 陣場山でのぶどう狩り(UWPメンバー39名)

(株)メルシャンが所有するワインを作るためのぶどう畑での作業。地元の方に教えてもらいながらぶどうの収穫を行った。景色の良い広い敷地での作業で、時間を忘れ作業していた。昼食には、豚汁やきのこご飯、産地であるりんごなどを用意して下さった。

学校訪問(午前・午後に分かれて実施)

- \* 丸子北中学校(UWPメンバー10名)
- \* 丸子中学校(UWPメンバー11名)

- \* 丸子北小学校(UWPメンバー18名)
- \* 丸子中央小学校(UWPメンバー17名)
- \* 塩川小学校(UWPメンバー6名)
- \* 西内小学校(UWPメンバー6名)
- \* 丸子実業高校(UWPメンバー5名)

各学校でそれぞれプログラムを考えてくださり、全校集会や各教室へ別れて学生との交流を行なった。全体集会では、フォークダンスやゲームで楽しい交流活動ができ、教室では英語の授業や体育の授業に参加しているメンバーがいた。

- \* とんぼハウス(UWPメンバー8名)

総合福祉施設である、とんぼハウスでは施設の方たちとの交流を行なった。毎年恒例となっているため、みんながとても快く迎え入れてくださり、メンバーも楽しい時間を過ごすことができた。

10月1日(日)

まるこ国際交流フェスティバル(UWPメンバー全員)

地域の方々が参加されるイベントで、国際色豊かなブースや日本文化を紹介するワークショップが行われた。UWPメンバーは自由にイベントに参加し、午後にはステージで30分のミニショーを行った。ホストファミリーの方もたくさん参加され盛り上がった。

### <地域学習>

10月27日(水) 午後

森教育委員長の講話

テーマ「日本／丸子地区における教育のシステムについて」

通訳:ビル・レッティさん

日本の教育システム、丸子地区が子供達のためにどのような政策をとっているかなど。時間に余裕がなく質疑応答の時間がとれなかった。

### <表敬訪問>

上田市長 水曜日午前に7名が訪問

### <Up with People ショー>

9月29日(金) 18時30分開場/19時開演

場所:セレスホール 集客数:約400名

豪華な舞台設備が管理されており、担当者の方がとても親切でUWP側の要望をすべて聞いてくださったので、演出的には満足のいくショーとなった。

### <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

金曜日(ショー日): ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置

## <プログラム参加への興味>

アンケート回収…39名参加

Up with People 活動情報希望者…17名

## <その他>

- \* 対面式: ホスト、メンバー共に、絡まった「運命の糸」の両端を持ち、引っ張り合うことで対面となった。堀内元丸子町長(現上田市収入役)も参加され、歓迎の言葉をいただいた。
- \* 施設利用: 毎日、丸子文化会館内の会議室を2、3部屋利用。
- \* 駐車場: 丸子文化会館内、UWPスタッフホテル内
- \* 食事: 火曜日昼食は実行委員会メンバー手作りの野菜カレー。
- \* 先遣隊: UWPメンバー2名(日本人、オランダ人)が訪問1週間前に上田入りし準備。

## <滞在を終えて>

### 受け入れ先の声:

- 準備開始の時期が遅かった。
- キャスト側からの大きなスケジュール変更は、こちらも企画を進めていることもあり困難であることを理解してほしい。
- マッチング方法を要検討。ホスト(特に毎年応募しているホスト)からのクレームを減らすため、UWP側とのコミュニケーションをもっと重要視したい。
- ホストに入るロードスタッフから、無線LANがある家族、キャストメンバーとのルームメイト等のリクエストがあった。ホストファミリーに入る意味をもう一度再検討してもいいのでは?

### ホストファミリーの声:

- ホストファミリーデーはお互いの友好を深める良い機会になったと思う。今後も是非スケジュールに入れてほしい。
- ホストファミリーデーは昼食後に昼寝をするなど、アメリカから強行軍で疲れていたようだ。全体的にもう少しゆとりのあるスケジュールが良いのでは?
- 彼らにとっては約20訪問地のうちの1ヶ所、1家族なので、何も特別ではないかもしれないが、私達ホストにとっては貴重な1週間だった。
- 朝夕の送迎に遠方の家族は時間がかかって家で過ごす時間が短くなってしまった。夕方早目の帰宅にするか、もう1日家族と寛げる日を設定してほしい。
- 到着日の時間を早くして、ウェルカムパーティーをしてあげたかった。
- 今年は「疲れた」「眠い」「調子が悪い」など、来日して間もないとは言え、不満が多かったように思う。次世代のリーダーを育成するプログラムなら、もっとメンバーを人選し、不満の多い子はカットすべき。忍耐強く、明るい人材を選んでいくべきだ。
- 我が家では大型犬を2頭飼っていて、犬好きの人を希望している。今回受け入れたメンバーたちは、去年のメンバーより好きなようで安心した。ベジタリアンだとかアレルギーなどの情報もありがたいが、犬好き、犬嫌いというのも知らせてほしい。毎年受け入れているので、犬好きのメンバーでないのなら今後の受け入れを考えたい。

#### UWPメンバーの声：

- UWP タウンということもあり、受け入れに慣れているようで、落ち着いた滞在だった。
- (ホストの)自宅でお米や野菜を作っていて、自給自足の生活を始めて体験した！
- セレスホールの施設の充実さに感動。照明システムも素晴らしかった。
- ぶどう狩りは、滅多に出来ない体験だったのと、久しぶりのアウトドアで体を使った活動だったのでとても楽しかった！
- 実行委員会の皆さんが作ってくださった野菜カレーが美味しかった。
- 地域活動の幼稚園・保育園訪問は楽しかったが、1つの学校へ訪問するメンバーが少人数だと、私たちのダイバーシティ(多種性)が失われてしまうし、人数が少ないことでできることの内容も限られてくる。訪問数の絞り込みをしたらどうか。
- 森教育長の話は興味深く、もっと質疑応答の時間がほしかった。

### 第3訪問地:大阪府吹田市 (10/2 - 10/9)

#### <受け入れ先(実行委員会)>

受け入れ先: UWP 吹田市実行委員会 (委員長 三原満里さん)

後援:吹田市

共催:大阪ユネスコ協会

\* 受け入れまでのミーティング:4月より変則的に実施

\* 役割:UWP 吹田市実行委員会 全ての分野での受け入れ窓口・統括

#### <ホストファミリー>

吹田市や近隣在住の 55 家族

ホストファミリー説明会:9月17日(土)メイシアターにて実施

ホストファミリー反省会:10月29日(日)メイシアターにて実施

当初、応募状況が悪く、説明会の少し前にやっと全員分のホストが見つかった。またキャンセルなども発生し、初めての受け入れも多かったが、'05春の吹田市訪問、また去年秋の大阪市訪問の際のホストからの再度申し込みや、UWP同窓生、他の訪問地の実行委員会のメンバー経由での応募など、新しい輪が広がった。

#### <地域活動/企業訪問先>

10月4日(水)

午前: 江坂企業協会(UWPメンバー8名)、大幸薬品(株)(UWPメンバー18名)、  
(株)サンリバー(UWPメンバー6名)、吹田ヤクルト販売(株)(UWPメンバー6名)  
マロニー(株)(UWPメンバー8名)、三ツ星ダイヤモンド工業(株)(UWPメンバー8名)  
(株)ミラクルスリーコーポレーション(UWPメンバー8名)

午後: アサヒビール吹田工場(UWPメンバー全員)

各企業では、訪問した会社についての説明や方針、商品のPRなどを学び、いろいろな体験をさせていただいた。また、各企業がどのように地域に貢献していくかというのも今回のテーマであった。海外進出を希望している企業にとっては、UWPメンバーからの率直な意見を今後の参考にしたいという意見もあった。

10月7日(土)

千里金蘭女子大学 (UWPメンバー全員+千里金蘭学生約60名、関西大学相撲部6名)

千里金蘭女子大学の学生が主体となり、UWPメンバーとの国際交流イベント「Meet the World in Kinran 2006」を開催。前半は6グループ(料理、文楽、長刀、茶道、ファッション、相撲)に分かれ、それぞれの日本文化的な要素を学び、後半はグループごとに発表を行った。昼食は大学が用意してくださったケータリング料理と、料理グループが作った世界各国の料理を囲んでの交流会となった。同年代同士の交流ということもあり、楽しく一日が過ぎた。



### <地域学習>

10月3日（火）午前

大阪城見学（UWPメンバー全員）

公共交通機関を利用し、吹田から大阪城公園まで移動。到着してから約2時間の自由時間の中で大阪城の中や外庭の見学を行った。

### <Up with People ショー>

10月5日（木）18時30分開場/19時開演

場所:メイシアター 中ホール 集客数:380名

地域の子供達の参加予定があったが、リハーサルの時間に間に合わず出演ができなくなってしまい残念だった。当日の天候が悪く予想よりも客数が少なかったが、観客の盛り上がりは良く好評だった。

### <表敬訪問>

正式な表敬訪問はなかったが、到着日に歓迎の挨拶をいただき、また急遽、休日に市のイベントにメンバー20名を招待していただいた。

### <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

水曜日(地域活動日): 千里金蘭大学 2 クラス(英会話、言語・観光ゼミ)にて異文化理解を目的としたレクチャーを行った(スタッフ・インターン4名による実施)

木曜日(ショー日): ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置、ショー終了後、プログラム説明会を実施

### <プログラム参加への興味>

アンケート回収…48名参加

Up with People 活動情報希望者…17名

プログラム説明会参加者…約15名

### <その他>

\* 対面式:花の名前を使用し、ホストとの対面。吹田市長や、大阪ユネスコ協会、また吹田ヤクルトの社長も出席し、歓迎の言葉をいただいた。

\* 施設利用:メイシアター内の部屋を利用。土曜日は千里金蘭大学の施設を利用。

\* 駐車場:吹田市役所駐車場

\* 先遣隊:UWP メンバー2名(ニュージーランド人・中国人)が訪問1週間前に吹田入りし準備。訪問前日に日本オフィススタッフがサポートとして先入り。

### <滞在を終えて>

受け入れ先の声:

- 今年は市の広報を通して、地元のボランティア実行委員を募った。地域の輪が広がってよかった。

- キャストのメンバー情報や、どのメンバーがどの企業に訪問するかなどの情報が送られてくるのが少し遅く、対応に苦労した。
- ショーの開催日が平日だったため、来場者が少なく残念だったが、来てくれた方はダイナミックなステージを堪能してくださったようで、こちらも感動した。
- 企業訪問先も世界の若者達と意見交換ができて良かったようだ。
- 先遣隊が2名とも外国人だったのは良い経験だったが、苦労も多かった。
- 活動が市内のため、メンバーが活動先へ移動する際の交通手段の検討が難しかった。
- メンバー数が多かったため、ホストファミリーの確保が大変であった。

#### ホストファミリーの声：

- 自分自身の新たな発見があったり、感動があった。とても良い経験になったと思う。
- 短すぎる1週間だった。家族全員楽しんだ。
- 吹田市から八尾市は遠く(往復2時間30分)、メンバーも通学に疲れたようでかわいそうなことをした。
- 受け入れ側の心構え、教育等、もう少しあればいいなと思った。
- 運営費のフォローが難しいようだったが、例えばショーの後の募金をもっと積極的にお願ひしても良かったのでは？若い人たちの貴重な体験を応援してあげたい。
- 個人情報の規制も理解できるが、どこのメンバーがどのホストファミリーにステイしているか分かれば、待ち合わせ場所など連絡し合せて都合が良いと思う。
- 出発日の市役所の駐車場で料金を払った。最後の見送りの日ぐらい無料にするべきだと思う。
- 連日、長時間にわたるカリキュラム、慣れない電車での移動、気候の変化のため、受け入れたメンバーの1人は体調を崩し2日間休んだ。もう少し緩やかなスケジュールがいいのでは？
- 日本を学ぼう、という意識がないように感じた。またPC持参には問題があるかと・・・遠く離れた家族や恋人を大切にするのは良いことだが、ちょっとしらけた。
- (間違った電車に乗って迷ってしまったらしく)休日に遅く帰ってきて心配した。

#### UWPメンバーの声：

- 電車を乗り継いで行動するというのは初めてだったので、最初は迷ったが、ホストをはじめ色々な人達に助けられ何とか乗り切った。公共交通機関がとても充実していて感心した。
- どこに行っても人だらけで、自分のホームタウンでは決して見ることができない光景だった。
- ホストファミリーから、直前に(受け入れが)決まったのでスケジュールの詳細がよく分からないと言われ、戸惑った。実行委員会からホストファミリーへの事前の情報伝達はきちんと行ったほうが両者にとって良いのでは？
- ホストファミリーの家から集合先まで約1時間30分かかるのはつらいし、ホストとの時間も短くなるので、ホスト募集の際はもう少し通学時間を考慮してほしい。
- 企業訪問では、地域貢献事業についてももう少し詳しい内容が聞けたら良かった。
- 地元の大学生との交流は、同年代の日本人が感じていること、また彼らの世代で流行っていることなどを教えてもらい、とても有意義な活動であった。彼らも何かを感じとってくれればうれしい。
- 大阪城を見学し、大阪のモダンな部分だけでなく、歴史を知ることでもできてよかった。

## 第4訪問地:奈良県宇陀市 (10/9 - 10/16)

### <受け入れ先(実行委員会)>

アップ室生国際交流村実行委員会(会長:北森義卿さん)

宇陀市室生地域事務所 地域振興課

\* 受け入れまでのミーティング:7月より変則的に実施

* 役割: 宇陀市室生地域事務所地域振興課	全ての分野の受け入れ窓口
アップ室生国際交流村	全ての分野を統括

### <ホストファミリー>

室生区や近隣在住の56家族

ホストファミリー説明会:9月15日(木)午後7:00より振興センターにて開催

ホストファミリー懇親会:11月30日(木)振興センターにて開催予定

メンバー数が多かったため、応募を広域に拡大。去年訪問からのリピーターもいれば、三重県在住のホストファミリーも応募された。

### <地域活動先>

10月11日(水)

室生西小学校(UWPメンバー20名)、室生東小学校(UWPメンバー20名)

室生中学校(UWPメンバー10名)、室生園(UWPメンバー10名)

各訪問先が主体となり、UWPメンバーを迎え入れてくださった。昼食を一緒にとり、活動が終了となったので、物足りないような気持ちもありつつ、ちょうど良い交流時間となったようだ。

10月14日(土)

音楽の森ふれあい館(UWPメンバー7名)

地域の方のための音楽喫茶コンサートにUWPメンバーのコーラスグループが特別出演した。UWPのオリジナルソングを2曲披露した後、エーデルワイス、ドレミの歌を皆で合唱し盛り上がった。

### <地域学習>

10月9日(月)大阪府吹田市からの移動途中

京都府、清水寺訪問

10月12日(木)

ハイキング⇒室生山上公園芸術の森見学⇒室生寺⇒室生寺にて僧侶の講話

昨年も好評であった室生地区でのハイキング。今回は、午前中にグループごとに分かれて山道を歩き、各チェックポイントでゲームを行った。ゴールは山上公園で、到着後、昼食。その後、徒歩で室生寺へ移動し、仏教についての講話を僧侶にいただいた。室生寺では通訳ボランティアの方が対応くださった。

## <表敬訪問>

宇陀市長 水曜日午前 UWP メンバー3 名が訪問

## <Up with People ショー>

10 月 14 日 (土) 17 時 30 分開場/18 時開演

場所:宇陀市総合体育館 集客数:550 名 地域の子供達:まつぼっくり少年少女合唱団  
来場者数に合わせ、急遽パイプ椅子を増やした。体育館ということもあり、照明会社から急遽レンタルをし、また施設担当者の方と直接対応をしていただいた。広い会場だったので、ステージ上のメンバーから観客席まで距離があり、一体感を作り出すのが難しかった。

## <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

水曜日(地域活動日): 名古屋外国語大学 2 クラス(ホスピタリティー)にて異文化理解を目的としたレッスンプランを行った。(スタッフ 2 名による実施)

木曜日(地域活動日): 南山短期大学3クラス(英語リスニング、比較文化)にて異文化理解を目的としたレッスンプランを行った。(スタッフ 2 名による実施)

土曜日(ショー日): ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置

## <プログラム参加への興味>

アンケート回収…46 名参加

Up with People 活動情報希望者…5 名

## <その他>

\* 対面式:ファッションショー(各ホスト持参の衣装を身に付け登場)、対面式後、持ち寄りの夕食会

\* 施設利用

到着日～出発日(火曜日・土曜日のをぞく): 振興センターを利用

火曜日: 音楽の森ふれあい館

土曜日: 宇陀市総合体育館

\* 駐車場: 室生地域事務所駐車場、UWP スタッフホテル

\* 先遣隊: UWP メンバー 2 名(日本人・アメリカ人)が訪問 1 週間前に室生入りし準備

\* 食事

火曜日昼食: 地元の女性メンバーによる手作りの昼食(ビュッフェ形式)

土曜日昼食: 実行委員会メンバーによる手作りの野菜カレー

## <滞在を終えて>

受け入れ先の声:

- 去年と比べ、メンバーの人数が多かったので、何かトラブルがあった際の対処方法が難しいと心配していたが、無事に終了し安心している。
- ショーに沢山の人が来てくれてうれしかった。(中には榛原駅から徒歩で会場まで来られた方も。)
- 完璧なレベルで運営ができたと自負している。

- 「室生区」にこだわったところがあったので、(地域活動の)受け入れ先は押し付けられたような気持ちがあったかも。
- 食事が残るのは残念。(サンドイッチやお弁当など、購入した食事)
- 地域活動先での内容を詰めることが重要だと感じた。(ある活動先では、メンバーにとって不完全燃焼な交流に終わった)
- 滞在中はあっという間に過ぎてしまった。面白かった！
- ホストファミリーも楽しんだようで安心したし、地域の方との交流もでき嬉しかった。
- ショーは、去年の方がこじんまりとしていたが、もっと観客とメンバーとの一体感があって良かった。ダンスとか音楽は色々あったが、同じことの繰り返しのような印象を受けた。また、歌詞が英語だからメッセージが伝わってこない。もっと観客との交流を増やしてほしい。

#### ホストファミリーの声：

- 小学2年生の孫が、習い始めた精一杯の英語で自己紹介し、またメンバーに質問する風景は今までに思ったこともなかった実習だったと思う。大変良い思い出となった。
- ホストファミリーデーには、私達もこの頃は行かない所(大仏)へ行くことができ、有意義な一日だった。
- メンバーより、各地のホストよりもらったメッセージの詰まったノートを見せてもらい、楽しそうな様子がうかがえて、私達もこの中の1ページとして加わるのかと思うと大変嬉しく思った。
- もう少し時間の余裕があればゆっくり過ごせたのではないか。メンバーがかわいそうだ(例：解散時間を早める、ホストファミリーデーを1日増やすなど)。
- とても良いメンバーが来てくれた。子どもがもう1人増えたと心から思っている。いつでもすぐにも帰ってきてほしい。分かれの悲しみが消えるまで、少し時間が必要なくらいだ。

#### UWPメンバーの声：

- 久しぶりに自然に囲まれて過ごし、ホームタウンにいるような滞在だった。
- 対面式後のホストファミリーの持ち寄り夕食会は暖かい雰囲気、心地が良かった。
- 肩に力が入っていないおもてなし、人の温かさに感動した。また訪問したい！
- 徐々に屋外での体を動かして行う活動で良いエクササイズとなった。
- もう少し(活動先の)子ども達と交流をしたかった。
- 国宝室生寺の歴史や仏教についてなど、色んなお話を聞いて勉強になった。事前に話す内容を教えてもらえれば、それについての質問を事前に伝えることができるし、当日通訳さんを困らせずにすむ。仏教についてはもっと深く知りたかった。また、室生寺のツアーを先に行ってから講和を受けた方が、もっと深い質問もできたのでは？
- 火曜日、土曜日に地元の方達が作ってくれたランチは、久しぶりの温かいキャストミール(活動日の食事)でとっても美味しかった！

## 第 5 訪問地:愛知県豊田市 (10/16 - 10/23)

### <受け入れ先(実行委員会)>

(財)豊田市国際交流協会(TIA)

ホームステイクラブ オープンハート

(財)三好町国際交流協会(地域活動の受け入れ及び、ホストファミリーの広報活動に参加)

UWP同窓生サポートチーム:山田美由紀さん 中島光恵さん

(初日・地域活動日・ショー日のサポートや各ミーティングに参加)

\* 受け入れまでのミーティング:5月より変則的に実施

* 役割: TIA	全ての分野での受け入れ窓口
オープンハート	ホストファミリー、日曜日の交流会担当
同窓生サポートチーム	全般のアシスト、キャスト用の資料作成

### <ホストファミリー>

豊田市在住の 72 家族

ホストファミリー説明会:10月1日(土)午後1:30よりTIAにて実施

ホストファミリー反省会:11月11日(土)午後1:30よりTIAにて実施

ほとんどの方が、以前UWPを受け入れたことがあったが、初めて受け入れる方もいた。反省会では、リピーターの方と初めての方達との間で有意義な意見交換が繰り広げられた。

### <表敬訪問>

豊田市助役 地域活動日午前メンバー15名が訪問

三好町長 地域活動日午後12名が訪問

### <地域活動・企業訪問先>

10月18日(水)

\* あすてボランティアグループさくら (UWPメンバー10名)

外国から駐在員として来られている外国人(トルコ、ブラジル、インド、マレーシア等)の配偶者の方達と一緒に料理を作り、会食後、小物作りとディスカッションを行った。

\* OISCA/オイスカ中部日本研修センター (UWPメンバー10名)

アジア・太平洋の地域から農業研修に来られている方達と一緒に、里芋堀り体験&ディスカッション。

昼食:オイスカの食堂にて

\* トヨタ自動車元町工場 (UWPメンバー10名)

工場ツアーやトヨタ生産方式・グローバル推進センター概要や海外支援について、ディスカッションやロールプレイを含めながら学習。昼食:工場内食堂にて

\* カヌー体験 in 三好町、三好町長表敬訪問（UWPメンバー12名）

（財）三好町国際交流協会の受け入れで、午前中は文化センターで茶道体験、日本庭園見学。  
昼食後、三好町で有名なスポーツ・カヌーポロを体験。

昼食：文化センターサンアート内のレストランにて

\* 渡刈清掃工場、消防署見学、豊田市助役表敬訪問（UWPメンバー15名）

環境学習の一環として、豊田市から排出される一般ゴミなどの処理場である渡刈清掃工場を見学。  
その後、消防署を訪問し地震体験や地震災害が起こったときの対策について学んだ。

**10月19日(木)午後**

\* けやきワークス（UWPメンバー10名）

障害者総合福祉センターとしての施設説明とツアー、作業チームの方達とともに保冷バッグの作成を行った。

\* 「カクキュー八丁味噌の郷」（UWPメンバー10名）

八丁味噌の工場を見学し、日本風土に基づいた食文化及び習慣の理解を深めた。

\* 倉橋園芸（UWPメンバー10名）

洋ランの栽培から出荷を行っている農家を訪問。作業の手伝いを体験した。

\* 「ゆめの木教室」（UWPメンバー10名）

NPO「子どもの国」の放課後学習支援事業である「ゆめの木教室」での交流。代表者の話や質疑応答の時間もあった。

\* フォレスタヒルズ・トヨタの森 里山学習館「エコの森ハウス」（UWPメンバー10名）

トヨタ自動車の環境問題への取り組みやトヨタの森についての紹介。昔の暮らしの知恵、植物の力を利用する未来の暮らしの学習や体験。

豊田工業高等専門学校（UWPメンバー10名）

課外活動である「ロボット体験」の教室へ訪問。授業参観と懇談会。

### <地域学習>

10月16日（月）奈良県宇陀市からの移動途中

三重県伊賀流忍者村、忍者博物館見学

10月17日(火) 午後 TIA 平山専務理事による講和

テーマ：豊田市在住の外国人との共生について

10月19日（木）午前

トヨタ自動車堤工場見学、豊田名誉会長への表敬訪問、トヨタ会館見学、その後昼食懇談会

豊田名誉会長には、UWPメンバー全員から歌を2曲披露し、スライドショーで豊田市での活動の様子を発表した。昼食懇談会では、トヨタ自動車のプレゼンテーションや質疑応答の時間もあり、トヨタの経営方針やこれからの計画について質問があった。

### <Up with People ショー>

10月22日(日) 15:30 開場/16時開演/18時～交流レセプション

場所:JAふれあいホール 集客数:480名 地域の子供達:ホストファミリーのお子さん

ステージが狭く、舞台設営、リハーサルなどでアレンジが必要となった。照明会社の方にも再度来ていただくことになった。ショー終了後に交流会があったので、撤収が後回しになったが、時間内に終了することができた。

### <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

水曜日(地域活動日): 愛知淑徳大学2クラス(NPO)にてNPOのケーススタディとしてUp with Peopleを紹介した。参加型ワークとして、学生はそれぞれ国際教育NPOのプログラムデザインを行った(スタッフ・インターン4名による実施)

木曜日(地域活動日):  
・南山大学1クラス(英語リーディング)にて異文化理解を目的とした  
レッスンプランを行った(スタッフ2名による実施)  
・桜花学園大学1クラス(観光文化)にて異文化理解を目的とした  
レッスンプランを行った(スタッフ・インターン4名による実施)

日曜日(ショー日): ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置、ショー終了後プログラム説明会の実施

### <プログラム参加への興味>

アンケート回収…42名参加

Up with People 活動情報希望者…22名

プログラム説明会参加者…約30名

### <その他>

\*到着日:TIAの平山専務理事より歓迎の言葉をいただいた。ホストへの対面は、実行委員会の意向により、カジュアルな形で実施。(式などを省略)各自、対面後解散。

\*施設利用:

豊田スタジアム:月曜～木曜までミーティング等に利用。部屋の大きさもちょうど良かった。また出発日は屋外駐車場のみ利用し、大型バスやホストの方の自家用車も停めることができた。

JAホール:ショー日に利用。ホールの他に、メンバーの控え室、ミーティング室など3部屋を利用。

\*駐車場:トヨタスタジアム駐車場、JAホール駐車場、スタッフ駐車場

\*先遣隊:なし

\*交流会:ショー終了後、ホストファミリーや関係者を対象に行われた夕食を兼ねた懇談会。

準備はオープンハートとTIAが担当。



## ＜滞在を終えて＞

### 受け入れ先の声：

- 去年の反省から、フィードバックの形式を取り入れ、地域活動の感想をメンバーからもらい、ある程度、メンバーが活動を通して何を感じたかが分かった。
- 去年よりもパワーアップしたショーで沢山の方に楽しんでもらえたようでよかった。
- 様々なホストファミリーから応募があり、メンバーにもそれぞれ個性があるので、各地で出会うホストファミリー全員とパーフェクトな関係を築くのは難しいだろうが、そのことについて、他のメンバーに吹聴するのはどうであろうか。ホストファミリーが全員ボランティアであり、善意でこの滞在が成り立っていることを、実行委員会もキャストメンバーも忘れてはならないと思う。
- 資料を読んだり、レポートを書くなど、地域活動の事前学習がもっと必要ではないか？ 活動内容やUWPとの関係、訪問の目的などをメンバーが認識していないケースがあった。

### ホストファミリーの声：

- 交流会、ショーの日程は日曜ではなくて土曜なら、日曜日にゆっくりできたのではないかな。
- 今回は2名を受け入れ、とてもいい経験が出来たと思う。ただ、スタッフの子は、家では殆どパソコンをやっていて、交流があまりできず物足りなかった。
- 毎回、とても良い子が来てくれて楽しい経験をしている。今後も受け入れたい。
- Showは去年よりも改善されており感動したが、個人的には2000年以前のような規模のミュージカルが観たい。
- 前回はなかった(TIA作成の)英文マニュアルがあつて助かった。
- 毎日がハードスケジュールで、早く寝させるなど、健康管理には気がつかった。
- メンバーの休日(金曜日)の帰り時間が遅かったのが心配した。
- 「嫁いだ娘が一時帰ってきてにぎやか」そんな感じの1週間だった。
- 平日の金曜日が休日というのもどうかと思った。我が家では主人が仕事を休み、他でも同様の対応をした家族があったようだ。

### UWPメンバーの声：

- 地域活動はそれぞれバラエティに富んでいて、どこのグループに行こうか迷った。
- 実行委員会もホストファミリーも受け入れに慣れているようで、フランクに過ごした1週間だった。(対面式無し、等)
- 豊田名誉会長への表敬訪問は、緊張したが、気さくに挨拶をしてくださったり、話しかけてくれたりしていい時間を過ごすことができた。もう少し時間があればよかった。
- 豊田市の外国人在住者に対するケアや環境に関する取り組みを聞いて、勉強になった。
- JAホールのサイズが小さかったので、あまり効果的に動くことができなかったのが残念。
- 豊田スタジアムが滞在中のメイン施設だったので、こちらも分かりやすかったし、ホストにとって都合がよかったようだった。(駐車等の問題を含めて)もっとスタジアムを活用できればよかった。

## 第 6 訪問地: 東京都多摩市 (10/23 - 10/29)

### <受け入れ先(実行委員会)>

UWP 多摩実行委員会(委員長 蓮池守一さん)

後援: 多摩市 多摩市教育委員会 多摩市国際交流センター

\* 受け入れまでのミーティング: 定例会を月に 1 回開催

\* 役割: UWP 多摩実行委員会 全ての分野の受付窓口 & 統括

### <ホストファミリー>

多摩市、また近隣在住の 65 家族

ホストファミリー説明会: 9 月 17 日(日)午後 1:30 よりヴィータコミュニネ(OPA8F)にて実施

ホストファミリー反省会(報告会): 11 月 12 日(日)午後 1:30 よりベルブ永山にて実施

ほとんどが UWP ホストファミリー経験者。初めてのホストファミリーも。反省会では、リピーターの方と初めての方達との間で有意義な意見交換や、地域活動やショーなどのビデオを上映。

### <地域活動先>

10 月 25 日(水) 午前

多摩市立鶴牧中学校、多摩市立諏訪中学校、多摩市立貝取中学校

各学校へUWPメンバーが 20 名ずつ訪問した。学校により、事前の準備や受け入れ態勢が異なったが、給食の時間は学生との良い交流時間となったようだ。今年の訪問で、多摩市内にある全中学校をUWPが訪問したことになる。

10 月 28 日(土)

\* 中央大学 (UWPメンバー20名)

午前中は、グループごとにゲームで意見交換をした後、「今、世界は平和か?」というテーマでディスカッションを行った。午後は、各グループで話し合った内容の発表をした。大学生の英語レベルが高く、多くのメンバーが率直な意見交換ができたとても感動していた。また、中国人メンバーからの「日本人に関する見方が変わった」という発言は、参加者の涙を誘った。

\* 多摩大学 (UWPメンバー20名)

午前中、キャンパス内にて、多摩センターで行われたハロウィンフェスティバル参加のための衣装作り。限られた材料でも、皆が工夫をこらした衣装の作成をした。午後からは会場にて、大学生とUWPメンバーがペアとなって、子供達へのキャンディー配り(トリック or トリートゲーム)に参加した。

\* 多摩市国際交流センター/ハロウィンフェスティバル in 多摩 2006 ミニショー

(UWPメンバー20名)

多摩市国際交流センターのメンバーと、東京多摩プロバスクラブ(定年退職後、地域への社会貢献を目的とした団体)のメンバーとの交流。午前中は長刀を体験。全員で公園にて昼食の後、多摩センターで開催された、ハロウィンフェスティバルで 30 分間のミニショーを 2 回行った。

### <地域学習>

10月23日（月）愛知県豊田市からの移動途中

富士川サービスエリアにて、富士山を見ながらの昼食を予定していたが、あいにく天候が悪く、見る  
ことができなかった。

10月25日（水）午後

（株）東芝 府中事業所見学（UWPメンバー35名）

2グループに分かれ、工場内を見学。機関車やエレベーターなどの製造過程を見学した。

その後、担当者の方との質疑応答の時間が設けられた。

（株）ベネッセコーポレーション/国士舘大学 体育学部（UWPメンバー25名）

日本の教育事情についてのプレゼンテーションと質疑応答、その後、プラネタリウムを見学。

その後、国士舘大学へ移動し、剣道部へ訪問。

### <Up with People ショー>

10月27日（金）18時30分開場/19時開演

場所：やまばとホール 集客数：540名 地域の子供達：NPO 法人グローバル言語文化研究会

入場料：中学生以下 無料、高校生以上 500円、一家庭 1000円

ホール担当者からの規制が数多くあり、舞台設営及び撤収の面で困難なところがあった。日本ツア  
ー最終地ということもあり、メンバーのエネルギーが普段より高く、観客にも熱気が伝わったようだ。

東京ということと、またUWP最後のショーということもあり、多くのUWP卒業生も来場した。

### <表敬訪問>

火曜日：午後3:00にメンバー4名が訪問

また、市長は土曜日に行われたハロウィンフェスティバル in 多摩 2006 会場でのミニショーもご覧い  
ただき、その後キャストに向けて激励のメッセージを送られた。

### <Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

水曜日（地域活動日）： 中央大学有志に対して異文化理解を目的としたレクレーションを行った。  
（スタッフ・インターン4名による実施）

金曜日（ショー日）： ショー終了後のアンケート調査、プログラム紹介ブース設置、ショー終了  
後プログラム説明会の実施

### <プログラム参加への興味>

アンケート回収…38名参加

Up with People 活動情報希望者…12名

プログラム説明会参加者…約15名

### <その他>

\* 対面式：実行委員会、教育委員会からの歓迎の挨拶の後、対面式（ホストが自己紹介）。

その後、多摩太鼓愛好会によるパフォーマンス。メンバーが太鼓に触れる場面も。

**\* 施設利用**

月～水曜日:ベルブ永山 多目的ホール

金曜日:やまばとホール ホールの他に使用可能な部屋を数室(楽屋など)利用

土曜日:パルテノン多摩 リハーサル室

**\* 駐車場:**UWP スタッフホテル、やまばとホール

**\* 先遣隊:**UWP メンバー2名(日本人・アメリカ人)が訪問1週間前に多摩入りし準備

**<滞在を終えて>**

**受け入れ先の声:**

- 今年も先遣隊が来てくれて大変助かった!
- 去年と同様、誰にでも実行委員会メンバーということが分かるように、ピンクのロゴ付きジャンパーを着用。屋外活動や駐車整理などでその効果を発揮できよかった。
- キャストメンバーの数が多いため、ホストファミリーを探すのには苦労した。ホストファミリー担当の実行委員メンバーに負担がかかったため、もう少し分担しても良かったのでは。
- ショーに沢山の方達が来場くださり、今までの努力が報われた。ショーの内容も、世界の若者のパワーと、彼らのメッセージがきちんと伝わって、今までで一番良かった。

**ホストファミリーの声:**

- 集合日のエレベーターが混んで困った。
- 最終日7時集合で、夕食の必要があるかの指示がなかったので戸惑った。
- 地域活動を通して、若者同士のふれあいを見られたのが良かった。
- 体調が悪いメンバーを受け入れたため、ホストファミリーデーは特に何もなかったのが残念。
- ショーの子ども達が出演したシーンでは感動のあまり、涙がでてきた。
- スタッフとメンバーの時間の過ごし方があまりにも違うので、接し方が困った。
- 登録費として2000円払った。市民団体のため、資金繰りに大変なことはよく分かるが、このような良いプログラムなのだから、市がもっと金銭的にサポートするべきだ。

**UWPメンバーの声:**

- 対面式の多摩太鼓には感動。太鼓を触ることもできて楽しかった。
- 実行委員会のピンクのジャケットは良いアイデアだと思う。メンバーにとっても分かりやすいので、質問があるときはすぐに人を見つけることができる。
- 実行委員会の人々が私たちの前で、UWP 受け入れの理由や、どのように運営しているかを直に話してくれてよかった。先遣隊とのチームワークもよく、連携してうまく回っているようで頼もしかった。
- 地域活動:受け入れ学校によって、対応に温度差があったようだ。すべての学校で UWP 主体のアクティビティが十分に出来たわけではないので、学校側の理解がもっと必要かも。
- 電車での通学時間が長く、特急や準急、快速など、どれに乗っていいか分からなくて困ったときがあった。
- やまばとホールはステージの大きさもちょうどよく、発表しやすかった

## おわりに

今回の日本ツアーを振り返り、たくさんの出来事を見つめなおしました。反省点は多々ありますが、このツアーを通して、本当に数え切れないほどの出会いや楽しい思い出をつくることができました。各地受け入れ先の皆様のご尽力に、キャストメンバー、スタッフ一同、心より感謝しております。メンバーはツアー中、いくつもの交流活動を行いました。これらの交流から学んだことを、プログラム終了後、自分達のコミュニティーで活かし、貢献してくれるよう願ってやみません。

すでにご報告させていただきましたが、Up with People 本部(デンバー)の決定により、11月末をもって日本オフィスを閉鎖すると同時に、すべての日本オフィススタッフも退職することとなりました。

President & CEO の Thomas Spaulding より報告されました、今回の決定の理由は以下の通りです。

- ① 現在、Up with People は財政的困難に直面しており、正常な経営状態に回復するには2~3年を要する予定である。コストがかかる日本での運営継続は見直さなければならない。
- ② 日本での活動は各地で成功を収めているので重要なことは理解しているが、今後はUp with People が長年目指している途上国の訪問を行いたい(来春はタイ訪問を予定)。

また、今回の本部決定を受けまして、長年 Up with People の、特に日本での活動を支援していただいた豊田名誉理事(トヨタ自動車(株)名誉会長)、白根理事(テキサス州政府日本事務所代表)は、日本ツアー終了後の10月末をもって、名誉理事および理事を辞任いたしました。

なお、Up with People の活動は今後も継続いたしますので、日本からのプログラム参加希望者は、デンバー本部へ直接申し込む事で引き続き参加が可能となります。また、今回のツアー中に、プログラムに関心を持ってくださった方へは、今後、デンバー本部の学生募集担当が対応をしていく予定となっております。

本部のこのような決定は、毎年受入を楽しみにいただいている実行委員会の皆さまの期待を裏切ること、また一方ではホストファミリーや行政団体の皆さまなど、各方面の方々に大変ご迷惑をおかけすることとなり、日本オフィススタッフ一同大変心苦しく思っております。各地の実行委員の方々、そしてUWP同窓生から継続を望んでくださる声もあり、今後同様の活動を行う可能性を模索しております。方向性が確定次第、皆さまにご連絡させていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

最後に、各地実行委員会の皆さまのこれまでのご支援、ご協力に感謝すると同時に、日本オフィスがこのような形で閉鎖しなければならないことを心よりお詫び申し上げます。

Up with People 日本オフィス

宮脇真一 金井貴美 徳田依子 富田愛里

## 添付資料

ツアー終了後、ホストファミリー、地域活動先、そして各地の関係者に、受け入れのお礼および日本オフィス閉鎖の告知のお手紙を発送いたしました。以下はホストファミリー用に作成したものです。

Up with People 日本オフィス  
150-0012 東京都渋谷区広尾 2-15-9  
宮脇真一 金井貴美 徳田依子 富田愛里  
TEL : 03-3400-7495  
E-mail : info@upwithpeoplejapan.gr.jp

2006年11月24日

ホストファミリーの皆さま

拝啓

紅葉も落ち着きを見せ、冬の入り口にさしかかってまいりました。皆さまにおきましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。この度は、Up with People の若者達を家族の一員として受け入れていただき、まことにありがとうございました。世界 23 ヶ国から参加した若者達は、多摩終了後ヨーロッパへ旅立ち、今も元気に活動しております。

9月18日、関西国際空港到着から6週間の日本ツアーがスタート。長崎県大村市では、800名以上の障害者の方々と九州地区最大規模交流イベント「ふれあいの集い」への参加。そして「Up with People タウン」である旧丸子町（現在合併して上田市）では、恒例となった「国際交流フェスティバル」に参加と、丸子地域を中心とした交流活動を行いました。大阪府吹田市では、企業訪問や地場産業を見学し、吹田から国内そして海外へ発信している技術や社会貢献事業について説明を受けての意見交換。また合併後奈良県宇陀市となった旧室生村では、国宝室生寺での講話を聞いたり自然が堪能できるウォークラリーへの参加。愛知県豊田市では、トヨタ自動車工場見学や豊田名誉会長への表敬訪問。また豊田市在住外国人についての現状説明や、農業体験、三好町ではカヌー体験。そして日本ツアー最終地である東京都多摩市では、中学校訪問やハロウィーンイベント等に参加。さらに、2004年から始めた多摩市内の全中学校訪問に関しましては、今回の中学3校訪問により目標を成し遂げることができました。彼らの6週間日本滞在中、心身ともに様々な体験をさせていただけたことを、ここに改めてお礼申し上げます。

すでにご存じかもしれませんが、Up with People 本部（デンバー）の決定により、11月末をもって日本オフィスを閉鎖することとなりました。

President & CEO の Thomas Spaulding より報告されました、今回の決定の理由は以下の通りです。

- ③ 現在、Up with People は財政的困難に直面しており、正常な経営状態に回復するには2~3年を要する予定である。コストがかかる日本での運営継続は見直さなければならない。
- ④ 日本での活動は各地で成功を収めているので重要なことは理解しているが、今後は Up with People が長年目指している途上国の訪問を行いたい（来春はタイ訪問を予定）。

本部のこのような決定は、毎年受入を楽しみにしていただいているホストファミリーの皆さまの期待を裏切ること、また一方では各地実行委員の皆さまなど、各方面の方々に大変ご迷惑をおかけすることとなり、日本オフィススタッフ一同大変心苦しく思っております。最後に、ホストファミリーの皆様のご支援、ご協力に感謝すると同時に、日本オフィスがこのような形で閉鎖しなければならないことを心よりお詫び申し上げます。

敬具

UWP地域活動スケジュール(案)

10/18(水)	①	②	③	④	⑤				
行き先	トヨタ自動車	オイスカ中部 日本研修センター	あすて	三好町カーブ体験	渡刈清掃工場 消防署・助役表敬				
参加人数	10	12	10	16	10				
9:00	UWPミーティング								
9:30	UWPミーティング								
10:00	移動	移動	移動	移動	移動				
10:30	工場・GPC概要説明	オイスカの説明	あすてランチを 作る	ふるさと会館(~11:10)	助役表敬				
11:00	ICT紹介			11:20~12:20 昼食 (文化センターサンアート)		移動			
11:30	ICTとの昼食懇談会	ディスカッション	昼食	カーブ体験 雨天決行:悪天候の場 合はカラーリング	昼食(弁当)				
12:00		屋食(食堂)				和紙人形の作成 や盆踊り	環境学習、工場見学 懇談		
12:30	TPSロールプレイ	農作業: さといもの収穫	意見交換など	着替え	消防署の見学 地震体験				
13:00						スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	町長表敬訪問	スタジアムへ移動
13:30									
14:00	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動				
14:30						スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動
15:00	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動				
15:30						スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動
16:00	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動				
16:30						スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動
17:00	UWPミーティング								
17:30	UWPミーティング								
18:00	解散								
UWP・TIA	平山・中島	倉橋・辰野(メンバー)	理事長・梅木・山田	MIA・金井	塚本・徳田				
通訳	トヨタ池田さん・中島	上田、掛水	山田	MIA手配・金井	神原、佐伯				
持ち物 服装		軍手、帽子 汚れていい服・靴	エプロン、マスク、帽子等	水着・着替え・タオル サンダル					
昼食	トヨタ負担	オイスカ手配(¥600*)	昼食200円/1人	MIA手配(¥600)	UWP手配				
備考		*当日現金清算		三好町バス手配	*通訳2名バスに乗車				

10/19(木)	①	②	③	④	⑤	⑥
行き先	けやきワークス	岡崎八丁味噌蔵 (カクキュー)	洋ラン農家	ゆめの木教室	トヨタの森	豊田工業高等専門学校
参加人数	9	11	10	10	10	9
8:00	8:30集合					
8:30	9:30-10:30 堤工場見学 11:15-11:30 豊田名誉会長表敬訪問(2階27号) 11:30-11:45 記念撮影(1階ショールーム) 11:45-12:30 トヨタ会館見学 12:30-13:30 昼食懇談会 13:30-13:45 着替え 13:45 トヨタ会館出発  TIA:平山、兵藤					
13:30	移動					
14:00	移動					
14:30	施設見学・説明	味噌蔵見学、試食	説明(10分) 農作業(1時間:鉢移 動、出荷準備etc)、 質問(30分)	代表(井村さん)の話・ 質疑応答・I.B.FOX*見学	DVD「森と一緒に」鑑賞、 森の注意事項	学校概要説明
15:00	ハンカチ作り			スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	UWP自国文化紹介 子どもとの懇談
15:30	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動			スタジアムへ移動
16:00				スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	
16:30	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動	スタジアムへ移動			スタジアムへ移動
17:00				UWPミーティング		
17:30	UWPミーティング					
18:00	解散					
UWP・TIA	梅木・徳田	辰野(メンバー)	倉橋	塚本	兵藤	平山・金井
通訳	木村、神原、ジャタ	カクキュー	佐伯、井上	上田、掛水	寺岡	金井
持ち物 服装			スニーカー、ジーパン等		長袖、長ズボン、帽子 運動靴(雨:長靴、カッパor 傘)	
備考	材料費500円/1人 UWP理事他4名 :15:45-16:15訪問	大型バス	UWP理事他4名 :14:30-15:00訪問	質問事項		UWP理事他4名 :16:30-17:30訪問

\*日系人経営ジョブセンター